

牛群検定通信 No109

～ サシバエの駆除 ～

いよいよ令和です。令和も牛群検定をよろしくお願いします。今回はサシバエについて考えてみましょう。

(1) サシバエ

吸血を行うサシバエは羽の形状が正三角形であり、体色はグレーに近いものです。吸血しないイエバエは羽の形状が細長く二等辺三角形で、体色は黒に近いものです。サシバエは、皮膚を刺して吸血しますが、その際は激しい痛みを伴うことから強いストレスとなります。また、ウイルスを媒介する場合がありますことも知られており、その対策は重要なものです。

(2) 活動期間

サシバエは初夏6月ごろから活動を開始しますが、暑さに弱いので真夏の8月は不活発となります。しかし、涼しくなる9月ごろから活動を再開し、秋口の10月ごろに絶頂となり、11月ごろまで活動が継続します。

（３）検定成績表

年間の乳量の変化を見たときに、乳量減少が９月に一旦回復したにもかかわらず、１０月１１月と長く乳量減少に陥っている場合は、サシバエの影響が考えられます。サシバエの影響は多岐にわたります。乳量の減少の他にも検定成績表では次のような事象が現れます。

- ・ミルカーの蹴り落とし、足あげによる乳器の傷などによる体細胞数の増加
- ・採食量低下、ストレス等による繁殖成績の悪化（足あげを行うことから、歩数計の精度も悪くなります）
- ・子牛の発育不良、またそのことによる初産分娩の遅延

（４）観察のポイント

サシバエの針で刺された時の激しい痛みのために、頻繁に尻尾を振る、足をあげる、下腹を蹴る、皮膚を振るわせるといった行動が見られ、落ち着きがなくなります。横臥による休養も十分に取れなくなり、採食量も減少します。搾乳時にも同様に落ち着きがないので、ミルカーを蹴り落としたりします。

フリーストールの場合は、餌槽に近寄らずに牛達が一カ所に集合するという行動をとることもあります。これは集合することで、刺されるリスクを下げると言われてしています。（集合することで牛同士の体熱をあげて、暑さを嫌うサシバエを追い払うという学説もあります）

（５）サシバエの対策

越冬したサシバエの幼虫や成虫は４～５月ごろに駆除することが大切です。牛舎の清掃は、古い糞が残る壁際、餌槽の際、ウォーターカップの下、水飲み場廻り、カーフハッチの敷料などを徹底してください。必要に応じて薬剤散布を行ってください。牛舎まわりの雑草の草刈りも大切です。繋ぎ飼いの場合は送風扇の角度を調整し、牛体に正しく風を当てることも有効とされています。